ISSN 0910-9242

龍谷大学佛教文化研究所紀要
第38号

◇研究ノート1

龍谷大学と中国旅順博物館及びドイツトルファン研究所との学術交流
～大谷探検隊とドイツ隊の本国帰還一〇〇周年を機縁として～

三谷真澄

二〇世紀初頭、各国の探検隊が相次いで中央アジアに派遣された。それらの探検隊のうち、日本の大谷探検隊とドイツのトルファン隊は、ほぼ同時期に同地域を学術調査し、相互に関連する資料を持ち帰った。その収集資料は、単独で、言語学、東洋史学、仏教学、仏教美術史学など種々の研究分野で一次資料として活用されてきたほか、最近になって、分蔵されてきた文献資料の接合例も発見されるなど学界に大きな足跡を残している。

二〇一四年は、両探検隊の本隊が本国に帰国して一〇〇年に当たる。それを記念して、龍谷ミュージアムでは、特別展が春秋に開催された[1]。

二〇一四年一〇月二七日、中国旅順博物館館長一行が龍谷大学を訪問され、これまで双方関係者の間で長く待ち望まれていた友好提携について一定の前進を見た。これを機会に、同館所蔵資料をテーマにした国際学術会議と諸研究機関との交流を行なった。

大谷探検隊の収集資料を所蔵する旅順博物館と龍谷大学は、一九九二年以来、二二年に亘る学術交流をおこなってきた。その成果として二〇〇二年度～二〇〇五年度[2]に漢字資料、二〇〇七年度～二〇一一年度[3]に非漢字資料を対象とする共同研究を遂行し、二〇一二年、同館所蔵の文献資料についての共同研究をほぼ完了した。

一方、大谷探検隊と同時期に同地域を探検したドイツトルファン探検隊の収集資料は、現在ベルリン市内三機関に蔵されている。同資料を保管研究するベルリン・ブランデンブルク州立科学アカデミー・トルファン研究所と龍谷大学は、一九六〇年代初頭より学術交流を重ね、すでに三冊の目録が刊行されており、四巻目が刊行予定である。

二〇一四年一〇月二八日に開催された国際学術会議（「中央アジア探検とその将来資料が結ぶ国際交流」）は、中国・ドイツ・日本の所蔵文物に関する最新の研究状況を提示することはもちろん、中央アジア特にトルファン地区の収集資料を蔵する研究機関の研究者が京都市に参会し、出土地を同じくする所蔵品の紹介と世界的価値について討論することを目的としたものであった。

本会議は、本研究所特別指定研究「大谷探検隊将来資料の総合的研究」（西域文化研究会）主催、仏教文化研究所第六回研究談話会として開催されたもので、日本学術振興会科学研究費補助金[4]と本学アジア仏教文化研究センター（BARC）[5]の支援を受けたものである。

本稿は、これまでの双方との交流史の点描と紹介を目的とするものであるが、上記特別指定研究における四つの研究班のうち「①大谷探検隊将来文字資料の調査研究」の報告を兼ねるものでもある。本学が蓄積してきた研究業績と学術交流の跡をいささかなりとも後学の徒に残すとともに、今後の国際的・学際的交流に向けた備忘録ともなれば幸いである。

開催日程と内容

一〇月二七日（月）

①調印式・・・京都東急ホテル「鞍馬」の間（西側）

旅順博物館と龍谷大学「西域文化研究会」との間で、友好提携が締結された。当日は、毎週月曜午後三時より敦煌トルファンの漢文仏教写本を解読している西域文化研究会のメンバーや、ドイツトルファン研究所前所長のペーター・ツィーメ氏も立ち会われた。

旅順博物館の王振芬館長と、西域文化研究会の入澤崇代表が、中日各二部の提携書に自署し、現在、双方各一部を保管している。

②研究懇談会・・・同（東側）

調印式後、赤松徹眞学長、上山大峻元学長、能仁正顯仏教文化研究所所長、若原雄昭研究部長らも出席しての研究懇談会が開催された。

中国側出席者：

王振芬（旅順博物館館長）・李愛民（大連市文化局副巡視員）・張岩（旅順博物館館長業務秘書）・王炫

壹（同館情報センター課員）

日本側出席者：

赤松徹眞（龍谷大学長）・上山大峻（龍谷大学元学長）・入澤崇（西域文化研究会代表）・能仁正顯（仏教文化研究所所長）・若原雄昭（研究部長）・徐光輝（国際文化学部教授）・三谷真澄（同）

一〇月二八日（火）

国際学術ワークショップ「中央アジア探検とその将来資料が結ぶ国際交流

・・・大宮学舎西黌二階大会議室

総合司会：三谷真澄（龍谷大学国際文化学部教授）

午後一時　趣旨説明　三谷真澄

報告一：大谷探検隊帰還一〇〇周年にあたって

報告者：入澤　崇（龍谷大学文学部教授、龍谷ミュージアム館長、ＢＡＲＣユニット2リーダー）

報告二：中央アジア出土古代ウイグル語文献研究の回顧と展望

報告者：ペーター・ツィーメ（前トルファン研究所所長）

報告三：旅順博物館蔵西域資料研究

報告者：王振芬（旅順博物館館長）

報告補佐：張岩（旅順博物館館長業務秘書）

質疑応答

午後四時　閉会挨拶　桂　紹隆（龍谷大学文学部教授、ＢＡＲＣセンター長）

学術交流の背景

龍谷大学は、一六三九年創立の浄土真宗本願寺派の宗門校である。旅順博物館は、一九一七年に京都出身の建築家松室重光の設計で創設された中国大連市にある博物館である。龍谷大学と旅順博物館の共通点は、大谷探検隊収集資料を所蔵するという点に他ならない。しかし、旅順港が軍港のため、二〇〇九年に至るまで長い間外国人の立入が原則禁止され、共同研究は困難を極めた。

本学との交流は、一九九二年三月に上山大峻教授、小田義久教授、木田知生教授が大連市で面談されたのが始まりであった。困難な情勢の中、諦めずに交流を続け、ついに二〇〇二年、奇しくも大谷探検隊派遣一〇〇周年の年に科研費の交付を得て共同研究がスタートした。三谷はその研究に参加させていただき、主として漢字仏典の同定作業に従事した。そしてその成果は、二〇〇五年一〇月一四・一五日に大連市において国際学術会議「旅順博物館蔵新疆出土佛経国際学術研討会」の開催、二〇〇六年三月に図録『旅順博物館蔵トルファン出土漢文仏典断片選影』（法藏館）と論文集『旅順博物館蔵新疆出土漢文佛経研究論文集』の出版に結実した。

三谷は、二〇〇六年二月九日に、郭富純館長（当時）より旅順博物館学術委員会・特邀委員として参画することを許され、二〇〇七年七月一四日より八月二六日に青森県立美術館で開催された特別展「旅順博物館展―西域仏教文化の精華」に実行委員として参加し、展示品の選定・図録の編集、および本学所蔵資料の参考出陳など展覧会全般の監修を行った。

旅順博物館は、二〇〇八年五月一八日（博物館の日）に中国の国家一級博物館に指定された。中国二〇〇〇余りの博物館中、六八三館が指定されたが、当時の王家勝副局長の尽力によって、旅順博物館は、遼寧省の他の三館とともに選ばれ、二〇〇八年九月二〇日に祝賀会と第一回学術会議「首届専家年会暨国際学術研討会」が開催され、三谷も会議に招待され発表の栄誉をいただいた。

二〇一〇年三月一三日には、本学三七〇周年記念ＪＴＢ特別企画プログラム「大連・旅順四日間～旅順博物館を訪ねる旅」参加者のため、特別の展示編成をしていただき、六〇名の龍大校友等の参加者とこれまでの研究交流の成果を共有することができた。そして、同じ二〇一〇年三月二九日には、大連市・王家勝局長、郭富純館長、王振芬副館長らを招聘して学術会議「旅順博物館蔵佛教写本国際研討会」を開催した。その成果の一部は、二〇一〇年三月、『旅順博物館所蔵新疆出土漢文浄土教写本集成』（龍谷大学西域研究叢書5、旅順博物館・龍谷大学共編、西域文化研究会）として出版した。

二〇一一年一〇月一〇日・一一日には、日本学術振興会科学研究費補助金「旅順博物館所蔵の非漢字資料に関する総合的研究」の研究成果として、龍谷大学仏教文化研究所特別指定研究（西域文化研究会）主催、アジア仏教文化研究センターの共催の国際学術シンポジウム「中央アジア出土の仏教写本」（「中亜出土的佛教写本」―Buddhist Manuscripts Excavated in Central Asia―）を開催し、同名の研究論文集を出版した。

友好提携にかかる経緯

二〇一〇年一一月五日に北九州市の「いのちのたび博物館（自然史・歴史博物館）」と、仁川広域市立博物館および大連市旅順博物館との間で「東アジア友好博物館に関する合意書」が調印され、当時の郭富純館長が出席した。二〇一一年一〇月七日～一二月一一日に「大連・モダンの風景―旅順博物館所蔵大連古写真展―」、二〇一三年一二月二一日～二〇一四年二月一一日に「仁川広域市立博物館・旅順博物館の名品展」の特別展が開催された。

当時から、旅順博物館側は、龍谷大学と提携を結びたいと考えておられ、郭館長もその意志を活字にも表現されていた。本学でもこれをうけて、二〇一一年度に、

三谷が原案を作成し、龍谷ミュージアムの仲介と国際部の主導で協定書の文案が練られ、一般提携書の締結に向けた協議が進められていた。また、龍谷ミュージアム・宮治昭館長（当時）も同意されていた。ところが、種々の事情があり、締結に至らず、紆余曲折を経て、旅順博物館との学術交流の主体であった本学「西域文化研究会」が、これまで二二年にわたる学術交流や共同研究の証として、旅順博物館との友好提携をとり結ぶこととなり、二〇一五年度に予定されている世界仏教文化研究センターの発足を機に、全学的な展開を見据え、暫定的で研究面に限定された提携ではあるものの、双方のこれまでの研究協力に敬意を表し、双方同意の下に、二〇一四年一〇月二七日、協定書に調印し、今後の総合的包括的提携を約束した。

旅順博物館関連学術交流略史

一九一七年　旅順博物館　創設

一九八八年　特別展「中国遼寧省文物展―遼寧省博物館・旅順博物館コレクションから―（神奈川県立歴史博物館）開催。

一九九一年　尚林・方廣錩・榮新江共撰『中國所藏「大谷収集品」概況：特別以敦煌寫經爲中心』（西域研究叢書1、龍谷大學佛教文化研究所・西域研究會）刊行。

一九九二年～一九九三年　特別展「旅順博物館所蔵品展―幻の西域コレクション」（京都文化博物館、京都新聞社主催）ほか、高松、名古屋、東京、福岡で巡回開催（八七件一一四点）。西域文化研究会研究員が図録解説執筆。

一九九二年三月　上山大峻・小田義久・木田知生の三教授が大連市で旅順側と面談。以来毎年定期的に訪問。

一九九二年当時　劉廣堂氏　館長。

一九九三年　龍谷大学仏教文化研究所・西域研究会『旅順博物館蔵新疆出土文物研究文集』（西域研究叢書2、龍谷大学仏教文化研究所・西域研究会編）刊行。

二〇〇二年四月　科学研究費補助金「旅順博物館所蔵新疆出土文物に関する総合的研究」（基盤研究A、代表者：上山大峻、二〇〇二～二〇〇五年度）の交付をうけ共同研究開始。

二〇〇二年四月一六日～七月一四日　特別展「絲綢路の至宝―旅順博物館仏教芸術名品展」佐川美術館（八三件九二点。図版番号および展示作品目録の番号は八三）開催。西域文化研究会研究員が図録解説執筆。

二〇〇二年八月二九日　合作意向書調印式（於旅順博物館）。

二〇〇三年三月二三日～三一日　二〇〇二年度旅順博物館訪問団来学。（劉廣堂・王智遠・孫伝波・王梅）

研修員：孫伝波（保管部）・王梅（保管部）

二〇〇三年三月二四日　合作協定書調印式（於龍谷大学）。

二〇〇三年八月二三日～二七日　旅順博物館蔵漢文仏教断片（藍冊）、デジタル撮影（第一次）。

二〇〇四年二月一五日～二四日　二〇〇三年度旅順博物館訪問団来学。

研修員：房学恵（副研究館員、保管部副主任）・劉寶衛（書画装表師）

二〇〇四年三月一九日～二九日　旅順博物館蔵漢文仏教断片（藍冊）、デジタル撮影（第二次）。

二〇〇四年一〇月一一日～一五日　旅順博物館蔵漢文仏教断片（藍冊）、デジタル撮影（第三次）。

二〇〇四年一一月二二日～一二月一日　二〇〇四年度旅順博物館訪問団来学。（王宇（副館長）・楊煜（宣教部副主任））

二〇〇五年一〇月一四・一五日　国際学術会議「旅順博物館蔵新疆出土佛経国際学術研討会」（大連市）開催。

二〇〇五年一二月　郭富純氏　旅順博物館館長に就任。

二〇〇五年一二月一〇日～一九日　二〇〇五年度旅順博物館訪問団来学。（劉廣堂（館長）・張斌（旅順博物館主任））

二〇〇六年三月　図録『旅順博物館蔵トルファン出土漢文仏典断片選影』（法蔵館）、論文集『旅順博物館蔵新疆出土漢文佛経研究論文集』出版。旅順博物館・龍谷大学共編論文集は、『中国旅順博物館蔵トルファン出土漢文仏典研究論文集』（西域研究叢書4、龍谷大学仏教文化研究所・西域研究会）としても刊行。

二〇〇七年四月　日本私立大学振興・共済事業団学術研究振興資金、「旅順博物館所蔵仏教写本の学際的研究」（二〇〇七～二〇〇九年度）開始。

二〇〇七年七月一四日～八月二六日　特別展「旅順博物館展―西域仏教文化の精華」（青森県立美術館）実行委員の一人として三谷真澄参加。西域文化研究会研究員が図録解説執筆。

二〇〇八年四月　科学研究費補助金「旅順博物館所蔵非漢字資料に関する総合的研究」（基盤研究B、代表者：三谷真澄、二〇〇八～二〇一一年度）の交付を受け、共同研究開始。

二〇〇八年五月一八日　中国国家一級博物館に指定。

二〇〇八年九月二〇日　祝賀会と第一回学術会議「首届専家年会暨国際

学術研討会」開催。龍大から上山大峻、徐光輝、三谷真澄が出席・発表。

二〇〇九年六月一日　旅順口一部を除き外国人に開放。

二〇〇九年一二月二三日～三〇日　旅順博物館蔵非漢字資料、デジタル撮影（スキャナ使用）。

二〇一〇年三月一二日～一五日　本学三七〇周年記念JTB特別企画プログラム「大連・旅順四日間～旅順博物館を訪ねる旅」実施。六〇名の龍大校友等の参加者。西域に関する特別の展示編成。

二〇一〇年三月二九日　国際学術会議「旅順博物館蔵佛教写本国際研討会」開催。

二〇一〇年三月三一日　『旅順博物館所蔵新疆出土漢文浄土教写本集成』（龍谷大学西域研究叢書5、旅順博物館・龍谷大学共編、西域文化研究会）出版。

二〇一一年一〇月一〇日・一一日　国際学術シンポジウム「中央アジア出土の仏教写本」（『中亜出土的佛教写本—Buddhist Manuscripts Excavated in Central Asia—』開催。

二〇一二年三月　研究論文集『中央アジア出土の仏教写本』出版。

二〇一三年一〇月　王振芬氏　旅順博物館館長に就任。

二〇一四年四月　科学研究費補助金「大谷探検隊・ドイツ探検隊収集の漢字仏典統合データベースの構築」（基盤研究C、代表者：三谷真澄、二〇一四～二〇一六年度）の交付を受け、共同研究開始。

二〇一四年一〇月二七日　友好提携書調印。

二〇一四年一〇月二八日　国際学術会議「中央アジア探検とその将来資料が結ぶ国際交流」開催。

旅順博物館略史

一九一五年　「物産陳列所」開設（旅順の千歳町の旧露清銀行跡）

一九一六年一一月　「関東都督府満蒙物産館」と改称（近接の松村町に開設）

一九一七年四月一日　「旅順博物館」成立（新疆出土文物収蔵）

一九一八年四月　「関東都督府博物館」と改称（関東都督府の命令）

一九一八年一一月六日　本館竣工（一九一六年着工）

一九一九年　「関東庁博物館」と改称（関東都督府の改変）

一九三四年　「旅順博物館」と改称（関東庁の行政機関が大連移転）

一九四五年八月二二日　「旅順東方文化博物館」と改称（ソ連による接収）

一九五一年二月一日　「旅順東方文化博物館」の管理権を中国政府に移譲

一九五四年一月六日　六二〇点の敦煌写本が北京・文化部社会文化事業管理局に移管（現在：中国国家図書館）

一九五四年四月一日　「旅順博物館」と改称

（葛華・孫伝波「九〇年の変遷と発展—旅順博物館小史—」『旅順博物館展　西域仏教文化の精華』二〇〇七による）

ドイツトルファン研究所関連学術交流略史

一七〇〇年　ブランデンブルク選帝侯科学協会（Kurfüstlich Brandenburgische Sozietät der Wissenschaften）創立。

プロイセン王立科学協会、プロイセン科学アカデミー、ドイツ科学アカデミー等と変遷。

一九六三年　京都大学人文科学研究所・藤枝晃教授が、ガバイン（A.v.Gabain）氏を橘瑞超氏の実家へ案内。

一九六五年　ヴォルフガンク・シュタイニッツ（Wolfgang Steinitz）氏とゲオルク・ハザイ（Georg Hazai）氏によって、ドイツ科学アカデミーのオリエント研究室にトルファン研究グループ（Turfan-forschungsgruppe）開設。

一九七八年　『高昌残影』（図版冊）の配布。ドイツ隊収集資料の一部である出口常順師（元四天王寺管長）所有の一三〇点のコレクションの図版。

一九九二年　ベルリン・ブランデンブルク州立科学アカデミー（Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften, BBAW）設立。（Turfanforschung）

一九六七年　藤枝晃氏、井ノ口泰淳氏、ベルリンを訪問。

その後竺沙雅章氏、古泉圓順氏、京戸慈光氏、釈舎幸紀氏、上山大峻氏、石塚晴通氏、宇野順治氏、臼田淳三氏らが、漢文写本の同定研究に従事。

一九七五年　Gerhard Schmit, Thomas Thilo: *Katalog Chinesischer Buddhistischer Textfragmente/ Schriften zur Geschichte und Kultur des Alten Orients/ Deutsche Akademie der Wissenschaften zu Berlin*（Berliner Turfantexte 六）・・・・・Katalog Band 1（1,071件の同定目録）出版。

一九八五年　Thomas Thilo: *Katalog Chinesischer Buddhistischer Textfragmente/Schriften zur Geschichte und Kultur des Alten Orients/Deutsche Akademie der Wissenschaften zu Berlin*(Berliner

Turfantexte 14)・・・・・Katalog Band 2 (1,200件の同定目録) 出版。

一九八五年一一月　百済康義・ベーターツィーメ著『ウイグル語の観無量寿経』永田文昌堂、刊行。

一九九七年九月　百済康義氏、トルファン研究所で講演（第一回Collegium Turfanicumと追認）。

一九九七年一〇月　百済康義・W.スンダーマン・吉田豊編集／龍谷大学仏教文化研究所編『イラン語断片集成』（大谷探検隊収集・龍谷大学所蔵中央アジア出土イラン語資料）（龍谷大学善本叢書一七、法藏館）出版。

二〇〇〇年　百済康義責任編集『ベルリン所蔵東トルキスタン出土漢文文献目録（試行本）』龍谷大学仏教文化研究所西域研究会、刊行（未公開）。

二〇〇一年　ドイツ隊派遣一〇〇周年記念事業として、ベルリンにて国際学術会議 *Turfan Revisited. The First Century of Research into the Arts and Cultures of the Silk Road* 開催。

二〇〇三年　大谷隊派遣一〇〇周年記念事業として、龍谷大学で国際学術会議 *"The Way of Buddha" 2003:The 100th Anniversary of the Otani Mission and the 50th of the Research Society for Central Asian Cultures (Cultures of the Silk Road and Modern Science)* 開催。

二〇〇五年　藤枝晃編『トルファン出土仏典の研究―高昌残影釈録』出版（出口常順師コレクションに関する研究成果）。

二〇〇五年度　北村高教授、ベルリンにて在外研究。

二〇〇五年六月二日　トルファン研究所にてワークショップ開催。三谷は、New results of Research on the Chinese Buddhist texts of Berlin Turfan Collection—A Plan of new chronological standard of Chinese Buddhist manuscripts excavated in Turfan　発表。

二〇〇五年　KOGI KUDARA: *CHINESISCHE UND MANJURISCHE HANDSCHRIFTEN UND SELTENE DRUCKE TEIL 4* (Verzeichnis der Orientalischen Handschriften in Deutschland, Band XII,4) Chinese Buddhist Texts from the Berlin Turfan Collections volume 3, compiled by KOGI KUDARA, edited by TOSHITAKA HASUIKE and MAZUMI MITANI, Franz Steiner Verlag Stuttgart・・・・・Katalog Band 3 (1,106件の同定目録) 出版。

二〇〇九年一一月二〇日　第四五回Collegium Turfanicum開催。

三谷は、A Joint Research on Chinese and Non-Chinese Buddhist Manuscripts in Ryukoku University and Lushun Museum (龍谷大学・旅順博物館の漢字・非漢字仏典写本に関する共同研究) 発表。

橘堂晃一氏は、A preliminary report on the study of the so-called Uigur Lehrtext: chap. 20 and 21発表。

二〇〇九年一一月　*"The Way of Buddha" 2003:The 100th Anniversary of the Otani Mission and the 50th of the Research Society for Central Asian Cultures (Cultures of the Silk Road and Modern Science vol.1)* 出版。

二〇一〇年八月四日～九月二七日　橘堂氏、BBAWの招きでベルリンに滞在。主としてウイグル語仏典資料を調査。

二〇一〇年九月二日　第五五回Collegium Turfanicum開催。

橘堂氏、Manuscripta Sino-Uigurica 1　発表。

二〇一一年四月一〇日～二〇一三年三月二九日　三谷、在外研究でベルリンに滞在。主として漢文仏典資料を調査。

二〇一一年九月一三日　第六三回Collegium Turfanicum開催。

Kazuyuki Enami（江南和幸）: Invitation to Papyrography-discoveries and analysis of ancient paper from Central Asia　発表。

二〇一二年八月一日～九月二七日　橘堂氏、BBAWの招きでベルリンに滞在。主としてウイグル語仏典資料を調査。

二〇一四年九月一日～二〇日　BBAW研究員・笠井幸代氏、BARC招聘研究員として龍谷大学にて滞在研究。

註

（1）二〇一四年四月一九日～六月八日「チベットの仏教世界―もうひとつの大谷探検隊」

二〇一四年一〇月四日～一一月三〇日「二楽荘と大谷探検隊―シルクロード研究の原点と隊員たちの思い」

（2）文部科学省・科学研究費補助金「中国旅順博物館所蔵新疆出土文物に関する総合的研究」（基盤研究A）二〇〇二（平成一四）年度～二〇〇五（平成一七）年度（研究代表者：上山大峻）

（3）日本私立大学振興共済事業団・学術研究振興資金「旅順博物館所蔵仏教写本の学際的研究」二〇〇七（平成一九）年度～二〇〇九（平成

二一）年度（研究代表者：三谷真澄）

日本学術振興会・科学研究費補助金「旅順博物館所蔵非漢字資料に関する総合的研究」（基盤研究B）二〇〇八（平成二〇）年度～二〇一一（平成二三）年度（研究代表者：三谷真澄）

（4）日本学術振興会・科学研究費補助金「大谷探検隊・ドイツ探検隊収集の漢字仏典統合データベースの構築」（基盤研究C）二〇一四（平成二六）年度～二〇一六（平成二八）年度（研究代表者：三谷真澄）

（5）文部科学省・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「アジア諸地域における仏教の多様性とその現代的可能性の総合的研究」二〇一〇（平成二二）年度～二〇一四（平成二六）年度（研究代表者：桂紹隆）アジア仏教文化研究センター長）

◇研究概要報告◇

（研究計画）

平成二十六（二〇一四）年度本研究所の研究計画は、指定研究二件（継続一、新規一）、共同研究四件（継続二、新規二）、常設研究三件（継続二、新規一）、特別指定研究三件（継続三）、そして個人研究二件（新規二）が設置され、合計十四件の研究プロジェクトが構成された。次に示すような具体的な計画のもと、総研究員数二〇九名の協力によって推進される。

本研究所は研究事業として、仏教文化講演会を七月十日に第八十二回（『平家物語』と高野山参詣曼荼羅）を、また十一月七日に第八十三回（高麗寺院の宿泊機能と新羅）を開催している。

研究成果として、『佛教文化研究所紀要』第五十三集には共同研究他の報告論文七編ならびに仏教文化講演会の講演記録を収めた。仏教文化研究叢書としては、『日本文学とその周辺（責任編集者　大取一馬氏）』が出版された。

A　指定研究（龍谷大学図書館蔵の貴重書の研究・出版）

1、真宗学　選擇集注解鈔の研究（三年次）

主任・川添　泰信　　研究員十一名

（研究の目的）　本研究は、まず一年目に次のとおり基本資料の収集をする。

写本、『選擇集注解鈔』存覚・五巻五冊（大宮図書館写字台文庫・常楽台旧蔵本）

第一巻・第二巻、応永二十二年（一四一五）五月、松下隠士某書写

第三巻、顕恵書写

第四巻・第五巻、寛正四年（一四六三）八月、明覚書写（イソシマ本）

写本、『選擇集注解鈔』（本派本願寺蔵）

第一巻・第四巻・第五巻（イソシマ本）

第四巻（顕恵本）

第一巻～第五巻（応永本）

版本、寛文二年（一六六二）壬寅年秋吉日　吉田庄左右衛門板行

版本、寛文二年（一六六二）壬寅年秋吉日　大坂心斎橋筋唐物町　北田清左右衛門

二年目には、資料の比較研究ならびに底本の翻刻をする。

三年目には、研究の総括と論文執筆をする。そして、『善本叢書』を編集・発行する。

本研究は、写本、『選擇集注解鈔』存覚・五巻五冊（大宮図書館写字台文庫・常楽台旧蔵本）

第一巻・第二巻、応永二十二年（一四一五）五月、松下隠士某書写

第三巻、顕恵書写

第四巻・第五巻、寛正四年八月、明覚書写

を底本とし翻刻を行う。翻刻に際しては、写本、『選擇集注解鈔』（本派本願寺蔵）

第一巻・第四巻・第五巻（イソシマ本）

第四巻（顕恵本）

第一巻～第五巻（応永本）

版本、寛文二年壬寅年秋吉日　吉田庄左右衛門板行

版本、寛文二年壬寅年秋吉日　大坂心斎橋筋唐物町　北田清左右衛門